



「そのまよまよ」にしなよ

跡ケア

シミ、にきび跡、虫さされ、きず跡……。

あきらめないですむ道がひらけてます

ある調査によると、日本人女性の70%以上が何らかのきず跡がありつつも、何もしていないとの結果(※)が……。今夏の美肌は、「跡」を制することから始まるようです。

トラブルと戦った後の肌は固く、色素沈着も

「できてしまったら、仕方がない」と、あきらめがちな「跡」。「でもケアをすれば、必ず肌は応えてくれます」とは、内科・美容皮膚科医の片桐衣理さん。「炎症を伴ったにきびやきずのダメージが真皮まで達すると、皮膚を再生しようと線維芽細胞が過剰に増殖して固く残り、凸凹のにきび跡やきず跡になります。またこれらのトラブルや紫外線がメラノサイトを刺激すると、メラニン色素を大量生成してシミが……。加齢で皮膚代謝が低下した肌には、「跡」が定着しやすくなります。まずは皮膚代謝を上げることから始めましょう」

肌と跡の「仁義なき戦い」

年齢とともに皮膚代謝も低下

表皮は約4～6週間周期ではがれ落ちて生まれ変わり(ターンオーバー)、本来は軽い「跡」なら自然に薄くなる。しかし皮膚代謝の低下で古い角質が厚くなり、色素沈着も発生する。



衣理クリニック表参道
院長 片桐衣理さん
内科・美容皮膚科医。女医ならではのセンスで内外美容をサポート。効果的できめ細やかな治療で、美容のプロや女優、モデルにも人気。著書に「片桐衣理のピリオディックスキンケア」(しょういん刊)。
〒東京都港区北青山3-5-30 入来ビル4F ☎03-5786-0077
<http://eri-clinic.com>

※2007年 バイオイル/ユニオン スイス社調べ